

「いまどきの学生」を学生相談室からみると…

迷い・ゆらぐ「こころ」とつき合って

学生相談室 丸山尚子

はじめに

「いまどきの学生は……」につづく最近の学生の「評価」は、程度の差こそあれ、きびしいものと相場が決まっています。

私も、そのきびしい「評価」をすむひとりでした。深刻な問題でもあつからかん」としている姿にあきれたり、かと思えば、友だちと少々うまくいかなかったくらいで大学に來なくなる。そんな姿に、「おいおい、大丈夫かい？」と思うことがしばしばでした。

しかし、相談室を訪れる学生たちに話を聞いてみると、私が考えている以上に深刻に悩んでいたりと、慎重過ぎるくらいいろいろなことに気を配り、気づかっていたりしているのに驚かされます。親や友人に心配させたくない、出来れば自分で解決したいと明るくふるまうけなげな姿なのだと思われ、自分自身も少しは決して「自己チュー」ではなく

れないのです。

メールの先にあるもの

なかには、「やさしすぎる」「軟弱になった」という人もいます。

確かに、まわりの目や身近な人への配慮のあまり、自分を出さず、対決しない。たとえば、コンパ等でも、人生について激しく論じあうなどはせず、カラオケで軽く歌い、ゲームに興じています。授業の合間にはいや授業中も（携帯のメールで、しばしば他愛もない話を交換し、情報をリアルタイムで共有し合います。まさに長閑そのものです。ガツガツしていた私たちの学生時代との違いを実感するひとときでもあります。しかしこうした群れあい、繋がりがあう（同調行動）中で、先行きの不透明さに対する不安を、仲間内でさぐり合い、確かめ合っているともとれます。メールをうっている時の表情は真剣そのものです。

「いまどきの学生」は？

先日、人権委員会等の主催で講演会がありました。

講師は青木先生（京都大学カウンスリングセンター教授）で、「いまどきの学生」について次のように述べられました。

「いまどきの学生」はもはや、従来のような「成長型」（がんばればなんとかなる。あの人を見なさい。あの人のようにがんばればなんとかなる。がんばろう）では立ち行かず、「調和」（同調）が求められ、「成長と安定」のバランス（ちようどいいところ）を求めて手さぐりしているというのです。そこにはモデルはなく、まさに「モデルなき手さぐりの時代」を生きているのが「いまどきの学生」であるというわけです。

世の中の成長とともに、「成長型」で大人になった私たちが、新しい生き方を求められている「いまどきの学生」に、従来型の生き方や価値観をそのまま押し付けることの「無理」に気づき、各人が新たな指導のあり方を模索しなければ・とあらためて思いました。

人生80年時代に、20歳そこそこの自分の生き方を決められる程世の中

は単純ではありません。また、やがては、高度な科学技術・文化、複雑な社会・国際関係を背負わねばならない「いまどきの学生」たちは、じっくりと迷い、ゆらぎ、手さぐりしてこそ、はじめて、柔軟な生き方、思考力を身につけることができるのだと指摘する人もいます。

相談室を訪れる中、見違えるように変わり成長していく学生を見る時、迷いは無駄どころか糧であることを実感させられます。

「こたこた」は最小限に！

青木先生はさらに、「大学は未来が発生するところ」であり、かつ、少々の「こたこた」はつきものといわれました。

こたこたはつきものとはいえ、こたこたは小さいに越したことはありませんし、大きくなる前に解決したいものです。そしてこたこたをバネに大きく飛躍し、未来を拓いてほしいと思います。学生相談室はそのために役にたきたいと思っっています。という学生相談室もまだまだ手さぐりの真つ最中です。一緒に手さぐりしながら、キャンパスのホットステーションであり続けたいと思っています。